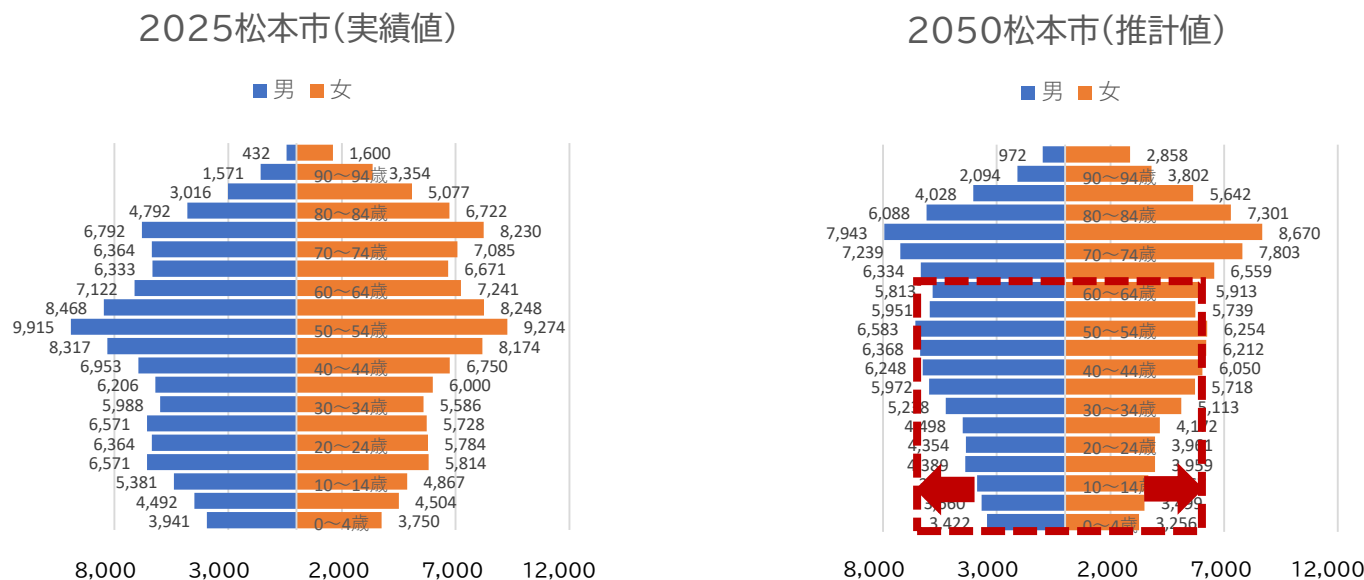


➤ 第12次基本計画の策定に当たり、コロナ禍後の人口動向や経済情勢を踏まえ「人口ビジョン」を改訂するもの

人口定常化	現ビジョン	シンカ版(案)
目的	- 少子化・高齢化、人口減少が加速する中、最大の問題は、いわゆる逆三角形の人口ピラミッドで示される人口比率のバランスの悪さ - 医療費・社会保障費の増加に対する支え手不足や現役世代の負担増といった課題が顕在化 - 人口比率のバランスの悪さに起因する問題を根本的に解決するためには、平準化された人口構造を実現することが必要 - 脱東京一極集中の流れや松本のポテンシャルを最大限に活かして自然増と社会増に全力で取り組む - 地方都市の先駆けとして「人口の定常化」を実現することを目指す	○ <u>過度な東京一極集中の是正</u> 東京圏への人口の集中と偏在は、災害や感染症、資源管理などの側面からリスクが高く、地域と国の持続可能性を損なう 【参考データ:2024年の転入超過数】 東京都: +79,285人、東京圏(1都3県): +135,843人 特に20～30歳代前半の若年層と女性の転入が多い ○ <u>地方の中核都市における自立モデル構築</u> 自然・歴史・文化・教育・医療などの資源が豊富な松本は、東京圏から離れた場所で“豊かさと幸せを実感できるまち”を提示できる ○ <u>“縮小に抗う”のではなく“安定をつくる”</u> 若者が定着する安定した人口構造は、将来に渡る公共サービスの質の維持と地域の持続力を生む ○ <u>人口定常化を実現する最後のタイミング</u> 10代後半の人口が転入超過である松本の強みを生かして、団塊ジュニアの子ども世代の人口が維持されている“今”取り組むことが重要
定義	自然増と社会増を実現し、世代間の人口バランスが取れた状態のこと	出生数増と社会増を実現し、世代間の人口バランスが取れた状態のこと
目標	現在と同等の24万人程度の人口を維持する 【R2】241,704人 → 【R32】238,977人	できる限り早い時期に、一定程度のボリュームのある安定した人口構造を実現する
目標達成に向けて	(1) 合計特殊出生率が2030年に 1.80 、2040年代に 2.07 、以後継続 (2) 社会増が2020～2050年にかけて、 15歳～39歳の男女が毎年計400人転入	特に若者と女性への政策を強化 ※ シミュレーションにより、出生数増、社会増をともに実現することが重要であることを実証
取り組みの方向性	安心して結婚・出産・育児ができる環境整備を行い、若い世代の転入増を目指すことで、人口の維持・増加にチャレンジ	- 出生数増に向けた取り組みを強化 - 世代、ジェンダー、国籍などの多様性を意識した取り組みを推進 - 特に若者と女性の移住・定住に向け取り組みを展開することで、安定した人口バランスを実現

1-2 「人口定常化」の考え方

- (1) **出生数増**と社会増を実現し、世代間の人口バランスがとれた状態を「人口定常化」とする。
- (2) 人口定常化の実現に向けて、**「規模（人口の維持）」よりも「構造（人口バランス）」を重視**
- (3) **できる限り早い時期に、一定程度のボリュームのある安定した人口構造を実現すること**を目標に掲げる。



対象	概要
15～64歳人口	- 産業活動の担い手となる人口 - 消費活動や住宅取得のけん引役となる人口
20～44歳人口	- 進学、就職、結婚という居住地の移動を伴うライフイベントを通じて、松本市の人口流動に大きな影響を与える人口 - 次世代の担い手となる子どもの人口を維持していく上でベースとなる人口(子どもを産み育てる、子どもを伴い松本市に転入する)
0～14歳人口	松本市の人口を将来にわたって維持していく上でベースとなる人口

左表の対象の人口が、
 一定程度のボリュームのある
 安定した人口構造に近づく
 =「人口定常化」の実現

1-3 「人口定常化」の実現に向けて

(現ビジョン)

「人口定常化」に向けた目標 「現在と同等の24万人程度の人口を維持する」ことを目標の1つに掲げる

- 目標達成の推計条件 (1) 自然増 合計特殊出生率が2030年に1.80、2040年代に2.07となり、以降継続
(2) 社会増 15歳～39歳の若い世代が毎年計400人(5歳年齢区分で40人ずつ) 転入

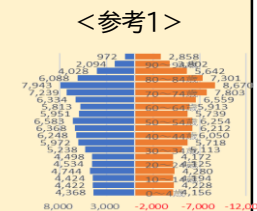
(シンカ版(案))

「人口定常化」に向けた実現パターンをシミュレーションすることにより、ターゲットを把握

<参考1> **出生数が増加、社会増減は社人研準拠**

…2030年以降、徐々に合計特殊出生率が上がり、2050年に合計特殊出生率1.80(国民希望出生率)を実現

➡ 年少人口が増加し35歳以下の人口構造が2050年に筒型に近づくものの、人口規模は小さい



<参考2> **出生数は社人研準拠、社会増が拡大**

…2030年以降、社会増の拡大により0～14歳人口が+0.1%ずつ、20～44歳人口が+0.2%ずつ増加

➡ 2050年に30歳以上の人口は増加するものの、30歳未満の人口構造は改善されず

⇒出生数増や社会増の単独では人口定常化の実現は難しく、人口定常化の実現には両者の改善が必要



<実現パターン> **出生数増と社会増がともに拡大(参考1+参考2)**

- ・ 社会増により全世代一律に人口が増加するよりも、特に子育て世代(20～44歳)の人口が増加する方が人口構造の改善に効果的
- ・ 社会増により45～64歳の人口が増加しても人口構造の改善には影響せず

複数パターンの
シミュレーションを検討中

人口定常化を実現するためには、

- (1) 出生数増と社会増をともに実現することが必要 (2) 特に若者と女性へのアプローチが重要